

2nd Predoctoral Symposium for Front-Line Scientists

開催趣意書

謹啓

日本薬物動態学会の活動に次世代を担う若手研究者が密接かつ積極的に携わることは、学会の将来及び日本の薬物動態研究の未来の開拓に繋がると我々若手研究者は考えています。また、そのようなビジョンは若手研究者のみならず、多くの学会員の共通認識でもあると思っています。しかしながら、若手研究者が演者に質問する光景を目の当たりにする機会がとりわけ近年の年会では少ないと感じており、活発な議論に若手研究者があまり参加できていないことは深刻な問題であると考えています。

若手研究者が学会活動に鋭く切り込んでゆくための起点として、学生主催シンポジウムの立ち上げを着想するに至り、昨年度の日本薬物動態学会 第30回年会（2015年11月12～14日）において第1回学生主催シンポジウム（1st Predoctoral Symposium for Front-Line Scientists）が開催されました。第1回学生主催シンポジウムでは、「次世代の革新的薬物動態研究へのアプローチ」をテーマに掲げ、将来の薬物動態学の発展を担う優秀な4名の学生の講演と、さらには特別講演として武蔵野大学薬学部教授の伊藤清美先生をお迎えし、ご講演いただきました。当日は約300人の聴講者とともに若手研究者の所属の枠を超えた活発な交流がなされ、上述の本シンポジウムの理念に沿った有意義な場となりました。

今後も継続して若手研究者が活躍できる機会を設けることが重要だと痛感したため、日本薬物動態学会 第31回年会（2016年10月13～15日）において、第2回学生主催シンポジウム（2nd Predoctoral Symposium for Front-Line Scientists）を企画する運びとなりました。本シンポジウムでは、若手研究者の切磋琢磨の場として有効活用して頂けるよう、ADMEの各分野から一つずつ、公募によって演題を選出する予定です。ADMEの各分野から演題を選出することで、若手研究者が自身の研究を薬物動態研究全体から顧みる機会を提供できると考えています。また、公募形式とすることで、本シンポジウムの公平性ならびに参加者の積極的な姿勢を担保できるものと考えています。

本シンポジウムにおいて同年代の研究者が集まって議論することで、演者のみならず聴講者の研究意欲を惹起することに繋がり、延いては若手の立場から学会全体を活性化の一助となることが期待されます。それに加えて、学生が主体となってシンポジウムの運営、発表、進行等を行うことにより、シンポジウム運営能力の涵養ならびに積極性の向上が見込まれます。私ども学生オーガナイザーが起こした小さな波が大きくなり、最終的には若手研究者全体が日本薬物動態学会を支える一つの柱となっていくものと信じております。

最後に、学会員の皆様におかれましては、本シンポジウムの趣旨を御理解頂き、演者若しくは聴講者として御参加賜りますようお願い申し上げますとともに、本シンポジウムを日本薬物動態学会の活性化に是非繋げて頂きたいと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

謹白

平成28年3月吉日

学生オーガナイザー 千葉大学大学院 薬学研究院 薄田 健史
慶応義塾大学大学院 薬学研究科 稲垣 舞

【募集内容と採択までの流れ】

応募資格：日本薬物動態学会の会員で、博士号取得前の大学院生および博士号取得前の企業研究者

※企業研究者の方は**30歳まで**の方を対象とさせていただきます。

テーマ：「新進気鋭の薬物動態研究から未来を開拓する」

発表時間：16分発表+5分質疑応答

発表方法：一般演題の方法に則ります。(口頭発表)

発表言語：日本語

討論言語：日本語

募集期間：指定のフォーマットを使用し、4月7日～6月6日(23:59ㄨ切)までにメールにて千葉大学大学院 薬学研究院 薄田 (z9p1038@students.chiba-u.jp) に送付してください。

選考期間と採択可否の通知：募集期間終了後、2週間以内に応募者全員に通知させていただきます。

採択者数：吸収・分布・代謝・排泄分野から1演題ずつ、計4演題を予定しております。

注意事項：演題の選考は一般演題の募集期間終了(6月27日)前には完了しますので、選考に漏れた場合は一般演題への応募をお願い致します。また、採択された演者の方には後日、年会ホームページにて英語による要旨の提出をお願い致します。なお、**採択された場合には、年会参加費とミキサー参加費が無料となります。**